どうなる自民１強の終焉

第５０回衆院選が１０月２７日に投開票され、全４６５議席の当選者が確定。裏金候補を中心に落選が相次ぎ、自公合わせても過半数割れとなり、自民党の求心力は低下。「保守王国」福井も自民１人、非自民３人が当選した。

与党２１５議席・野党２５０議席

大躍進の国民民主４倍に

石破茂首相は就任からわずか８日後、衆議院解散に踏み切った。３年前の２０２１年10月以来の『２０２４衆院選』が10月15日に公示され、４６５（選挙区２８９、比例代表１７６）の議席を競い、全国で１３００人以上が立候補。

自民党派閥の裏金事件から初の総選挙で、政治の信頼回復に向けた取り組みが最大の争点となった。その結果は、与党２１５議席、野党２５０議席。自民党１９１、立憲民主党１４８、日本維新の会38、国民民主党28、公明党24、れいわ新選組９、共産党８、参政党３、社民党１、諸派３、無所属12。自民は公示前の２４７議席から大きく減らし、98議席だった立民は大幅に増やした。女性の当選者は73人で、過去最多になった。

自民の単独過半数割れは、政権交代を許した２００９年の衆院選以来15年ぶり。法務、農水大臣も落選し、石破首相らの責任論が党内で浮上する可能性もあり、**小泉進次郎**選対委員長は「責任を取る」と早々に辞任、石破政権から即刻退散した。

今回は自民党の裏金議員の対応が注目された。裏金議員として取り沙汰された旧安倍派の43人を含む46人が立候補。このうち〝錦の御旗〟という公認を得られず無所属から12人が立候補した。この対応に有権者の「政治とカネ」への怒りは払拭されなかった。さらに非公認となった議員が代表を務める政党支部にも本部が２０００万円を支給して

強固な保守王国福井の牙城崩す

県内当選者4人に！

福井県内2選挙区には、現行の区割りで過去最多となる10人が立候補。元職や新人が入り乱れ、波乱の選挙戦に。

これまで保守王国の福井選挙区が全国放送の選挙特番に取り上げられることは稀だったが、今回は注目選挙区だけあって再々登場。

1区は196万円の不記載で比例重複復活を認められなかった**稲田朋美**氏に新人4人が挑む。2区も1千万円以上の不記載で公認を得らなかった**高木毅**氏に4人が挑戦する。「政治とカネ」を巡り2選挙区は保守の牙城奪還を目指し異例の選挙戦となった。

県内小選挙区開票結果

福井1区			
当	**86,906**	**稲田　朋美**	**自・前⑦**
比	**70,328**	**波多野　翼**	**立・新①**
	19,716	田中こはる	参・新
	11,215	金元　幸枝	共・新
	9,845	西山　理恵	無・新

福井2区			
当	**54,100**	**辻　英之**	**立・新①**
比	**38,749**	**斉木　武志**	**維・元**
	33,532	高木　毅	無・前
	18,656	山本　拓	無・元
	3,934	小柳　茂臣	共・新

結果、背水の陣で臨んで稲田朋美氏が勝利し7選を果たすが、〝みそぎ選挙〟の高木氏は大差を付けられ敗北と明暗を分けた。一方、立憲民主党から出馬した2区の新人**辻英之**氏が丹南、嶺南ともに幅広く浸透し初当選、1996年以来、28年ぶりに非自民候補が当選、強固な保守の牙城を崩した。さらに、1区の立民新人の**波多野翼**氏、2区の維新の会元職の**斉木武志**氏が比例代表北信越ブロックで復活当選。県内に久しく4人の衆院議員が誕生した。

自民稲田VS立民波多野

稲田朋美氏は党から公認を得られたものの、比例の重複立候補が認められず背水の陣で選挙戦に挑んだ。終始「初心と原点に戻って」を繰り返し、「党の政策活動費の廃止。信頼を取り戻す。自民党を変える、その先頭に立つ」と訴える。高い知名度を武器にこれまで連勝だが、今回は県農政連が推薦を見送るなど苦戦を強いられ、終盤には2000万円支給で直前出馬の波多野氏の猛追を受け、「厳しく、崖っぷち。福井から自民議員をなくすわけにはいかない」と自ら最後のお願いに奔走。

稲田朋美氏

開票結果を待つ選挙事務所は、開票と同時に当確が出ていたこれまでと違って珍しく激戦だけに、支援者は固唾を呑んで見守った。ようやく午後11時に当確の一報が入ると安堵と拍手喝采。杉本知事、自民党県連、首長も勢ぞろい。

激戦を制し7選を果たした稲田氏だが、大票田の福井市や坂井市は得票数が前回の6